

第21回 RKK 学童駅伝

新型コロナウイルス感染症防止対策等ガイドラインについて

R4.10.1

◇新型コロナウイルス感染症予防の基本方針

1. ヘルスチェックシートの提出
2. マスクの持参、着用
3. 検温の実施
4. 手指の消毒
5. 3密（密閉、密集、密接）の回避

◇感染防止対策及び参加について

①以下のア～カに該当する場合は、大会に参加できない。

ア 感染が判明し、治癒していない場合

イ 濃厚接触者に特定され、起算日から5日間経過していない場合（短縮する場合あり）

ウ PCR 検査を受けて、陰性が判明していない場合

エ 発熱等の風邪症状や息苦しさ、倦怠感、味覚・嗅覚障害等の症状がみられる場合

オ 同居家族に発熱等の風邪症状がみられる場合

カ その他、保健所から参加を控えるよう指示があった場合

②マスクを持参すること（参加受付時や着替え時等の、スポーツを行っていない際や会話をする際にはマスクを着用すること）

③こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施すること
（各団体でアルコール消毒可能なものを準備しておくこと）

④他の参加者、主催スタッフとの距離（できるだけ1m以上）を確保すること（障がい者の誘導や介助を行う場合を除く）

⑤イベント中に大きな声で会話、応援等をしないこと（競技場内・チーム待機場含む）

⑥感染防止のために主催者が決めたその他の措置の遵守、主催者の指示に従うこと。

⑦大会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告すること

◇会場における感染予防策

- ①室内練習場については、密を避けるため、原則、使用禁止とする。
- ②各ドアノブ等（トイレ含む）に接触する前後は手指を洗うか、消毒するか、どちらかの対策を行うこと。
- ③マスクの着用の徹底
 - ア 大会役員、補助員、警備員などすべてのスタッフに常時マスク着用を義務付ける。
 - イ 選手には、競技中（ウォーミングアップ、クールダウンを含む）以外のマスク着用を義務付ける。
 - ウ チーム関係者、報道関係者も会場および周辺でのマスク着用を義務付ける。
- ④ソーシャルディスタンスの確保
 - ア 会場では可能な限り他人との距離を確保し、必要以上の会話を避ける。
 - イ たすき、健康に関する誓約書の受け渡しなど、対面での対応が必要な場所には可能な限りパーティションを設置する。
- ⑤手指の消毒場所の確保
 - 選手の待機場所、大会役員や運営スタッフが滞留する場所には可能な限りアルコール等の手指消毒剤を用意する。
- ⑥スタート、中継所
 - 競技者や付き添い部員の距離が近くなりすぎないように呼びかける。使用した競技者が長く滞留しないよう促す。
- ⑦ごみの処理
 - 飲み残し飲料や鼻水、唾液などが付着したごみは自己責任で処理（原則として持ち帰り）するようにする。

◇競技者およびチーム関係者の対応事項

- ①競技者は大会の1週間前からの体調管理および検温を実施し、体調・体温等を管理しておくこと。
- ②各チームの代表者は競技者および関係者の健康状態を確認し、提出用のヘルスチェックシート1枚を大会当日に主催者に提出すること。
- ③ヘルスチェックシートを提出しない参加団体は出場を認めない。
- ④競技者、チーム関係者は会場到着時に検温を実施する。異常があった場合には大会本部の指示に従う。
- ⑤体調が不確かな競技者がいたときは、その場で検温を実施し、大会本部の指示に従う。
- ⑥大会終了後2週間の体調管理・検温を実施する。
- ⑦競技中を除きマスクの着用を義務とし、マスクをしていない人に対し注意を促す。
手指の消毒の徹底を呼び掛ける。
- ⑧会場では、唾（つば）や痰（たん）を吐くことは慎む。

⑨接触確認アプリの導入が望ましい。

◇ 応援及び入場規制について

- ①受付の際に監督・選手・マネージャー・保護者分の入場用リストバンドを配布する。
入場用リストバンドを着用していないものは、競技場内及びスタンド内への入場ができない。
- その他の観戦者へは、検温・ヘルスチェックシート記入後、リストバンドを配布する。
- ②大声での応援は、個人・集団どちらも禁止とする。(スタンド内・コース沿道・それ以外)
- ③スタンドで観戦する場合は、指定された間隔を空けること。

◇開会式・閉会式について

- ①密を避け、短時間で終わるようなプログラムにすることを努める。
- ②手指消毒を徹底し、選手とは最小限の接触で済むようにとりおこなう。
- ③感染状況によっては、代表選手のみでの式への参加の場合もありえる。